

高齢者の誤嚥性肺炎等リスク 低減に「在宅介護向けベッド」

シーホネンスから発売

医療・介護用ベッドメーカーのシーホネンス株式会社（社長・増本龍樹氏、大阪市東成区深江北三ー〇一七）は、新型在宅介護向けベッド「Epi.（エミ）」を九月より発売開始する。

Epi.は利用者と介助者、福祉用具事業者に「笑顔」になってもらうため、快適・安全・簡単をコンセプトにあらゆる機能を搭載したハイエンドモデルであり、以下の特長を有している。

①高齢者の誤嚥性肺炎に、誤嚥リスクを低減するADLポジションⅡ頭頸部を0〜30度で調整できるADLポジションは、ベッド上で飲み込みに適した顎を引いた姿勢が取れるため誤嚥リスクの低減に繋がる。ベッド上で

止により自宅で過ごす時間が増加）
③床ずれリスクの軽減に「スイングバック機能」Ⅱ背上げ時に背ボトム支点が後ろに8センチスイングすることで、ずれない背上げを実現した。腹部の圧迫感や前ずれが軽減

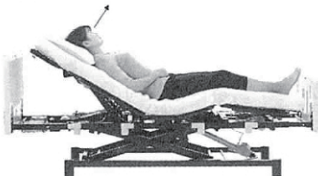
されて、床ずれリスク軽減につながる。
④誰でも使いやすい液晶手元スイッチⅡ操作しやすいバリアフリー設計（液晶表示で頭・背・足・高さ全ての数値を表示。ベッド操作時の音声案内で、誤操作の防止に。カラーリングは視認性が高い黒ベースに白文字）
▽在宅介護のケアの資質向上に！操作履歴表示Ⅱ操作ログ画面で各操作のボタンを押した回数・操作の合計時間を確認できる。例えば、モニタリング時に操作履歴のフィードバックを利用者に行うことで、ケアの資質向上に繋がる。

で簡単切り替え：ベッドの長さはオプションで、利用者身長や部屋のスペースに合わせて調整できる。
同社は、設立六十四年の医療・介護向けベッドメーカー。多くの病院や介護施設から高い信頼を得ている。医療施設・介護施設への取引実績は五六〇八施設（二〇〇九年〜二〇一九年）に上っておりその製品力が認められ二〇一五年に在宅介護用ベッド「和夢 彩」がグッドデザイン賞を受賞している。

ADLポジション



従来の介護ベッド



⑤在宅介護の環境に合わせてベッドを変更できる「スーパームジュール機能」Ⅱ▽低床／超低床タイプを簡単切り替え：組み立て時に脚座の差し込み方向を縦・横と変えるだけで、ベッド床高を変更することができる。▽ベッド長さを工具なし

の飲食や投薬時の誤嚥リスク低減に、また口腔ケア時のポジションニングにも活用できる。
（日本の肺炎の実態）
Ⅱ肺炎は日本の死因の第三位。肺炎による死亡者数の内98%が高齢者。高齢者の肺炎のうち、誤嚥が原因の誤嚥性肺炎は約70%）
②コロナ時代の在宅介護に。ベッド上での快適を追求した「QOLポジション」Ⅱ頭頸部を0〜30度で調整できるQOLポジションは、目線が前を向くため家族とのコミュニケーションがとりやすくベッド上で快適に過ごせる。
（新型コロナウイルス感染症により、「3密」を避ける必要がある。高齢者の重症化リスクは高い。デイサービス等の提供が一部休